

# 奈良勤労者魚釣りクラブ

## ついで運動45年 遊びの先に見えたもの(1)

### 会創立の経緯

会の創立は1

970年(昭和44)年7月12日。5月頃から「奈良勤労者魚釣りクラブ準備会」をつくり、知人らに参加を呼びかけ、23人が集まったところで、第1回魚釣り大会を島ヶ原の木津川でフナを対象に開催。その場で会の創立を確認。

第2回大会を五ヶ所湾の田曾浦で投げ釣り(7月19、20

日)、第3回大会を高山ダム(10月25日)、海・磯講習会(11月19日)、第4回大会を堅田のイカダ(11月21日)の開催を決定。各15〜20名が参加しました。辻村、紺谷会員が参加され、海は紺谷先生の肝いりでマイクロボスでの釣行でした。このとき会員は35名。勤労者のつりの会は珍しいと朝日新聞奈良版に紹介され(第2回大会から)、

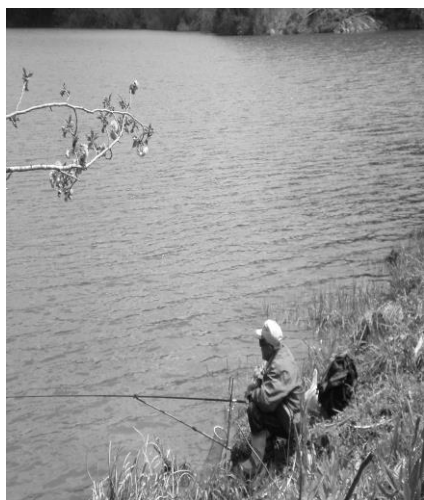
### 寺畑 尚幸

以後、毎回の釣行が新聞で紹介。記事を見たり人の入会が続き、2年後の2月には47名の会員となりました。朝日五條支局の市口氏の応援で私も「つり記事」を書き、政党や政治活動と縁の無いつり人が大半の会となりました。

以後、「奈良新聞」も協力してくれ、会の紹介や私のつりの楽

しさを連載してくれました。そもそもこの会をつくるきっかけは、60年安

保闘争以後、革新勢力の台頭と労働運動の高揚時期にあり、70



宮川・見瀬谷ダムのハエ釣り

80年代に「民主連合政府」の樹立が期待される時期でもありました。全国に自主的な大衆組織が生まれ、華やかな活動が広がりはじめました。

1966年2月、日本共産党の機関紙「赤旗」に「釣り欄」ができ、永田一脩、

り記事が掲載されるようになり、67年11月には日曜版主催のハゼ釣り大会が開催され、これを契機に「東京勤労者釣の会」が68年3月に発会しました。いろいろな活動に追い回されていた宇賀神県会議員、梅田弁護士の私らつり好きは、「釣りの会」は大衆運動で組織をつくれば堂々と釣行できるという手前勝手な理屈で、募集ビラで会員を募り、全国で3番目の働く者の釣りの会「奈良勤労者魚つりクラブ」を発足しました。

加藤恵司氏らつり人の楽しい釣行記や、赤旗日曜版編集長の釣

私の所属する奈良勤労者魚釣りクラブは発足して46年が過ぎました。会には日本が高度経済成長の下で、狂乱物価、公害や自然破壊が急速にすすむなか、誰もが楽しい釣りができることをモットーに会の運営や釣り運動をすすめてきました。

会員の歴史や活動を振り返り、今後の活動にいかすために、会創立時の初代事務局長で現会長の寺畑氏が会報に「つり運動45年遊びの先に見えたもの」を報告することになりました。同氏の報告を許可を得て「釣り日和」に随時掲載することになりました。

(つづく)